

とに昭和38年の1.2月における、本州中部裏日本地方の現象はこのことを顕著に物語っている。

昭和38年の1.2月の上層風速度の弱かった原因は、この年には、ジェット流が著しく南下して、本州南方海上に位置している、本州上空の傾度が極めて緩慢であったからで、このため、大陸方面よりする季節風が長い間日本海上を流動する間に、比較的高温の海面・殊に発達せる対馬暖流から温湿の供給を受けて著しく変質して、不安定となり、逆に多雪地金沢、伏木、福井、等各地に直面する海上高く、雄大な積乱雲の発達となり、これらの地方に大雪を起したものと考える。最近このような現象を北陸前線と呼んでいる人もある程である。

なおこのことについては、大戦中、日本陸軍の航空部隊が、戦略上の目的で日本海上の気象調査を実施した際、冬期日本海上では、その中央部から本州にかけて雄大な積乱雲が発生している、当時の航空兵力をもってしては、大陸方面よりする本土空襲は不可能であろうという結論に達したと聞いており、冬季雷雨現象が裏日本沿岸に多発していることと合せてこれを立証することが出来ると思う。

4. 結 語

今までにも、このような調査が多々出されていることと考えるが、本文の調査が、冬期裏日本地方の降雪の機構に多少ともご参考となれば幸甚に思う。

理 事 会 だ よ り

第18回(13期)常任理事会議事録

日 時: 昭和40年11月10日(水) 1600~1830

場 所: 東京管区気象台会議室

出席者: 畠山, 北岡, 桜庭, 今井, 須田, 小平, 吉野, 岸保, 安藤各理事(順序不同)

議 決

1. 日下部評議員の後任は、仁科伸彦会員に依頼することを承認する。
2. 秋季大会中12月1日に全国理事会を開くが、その報告議題は、次の通りとする。
 - (1) 国際雲物理会議の経過, (2) 日本学術会議第7期会員の推せん候補者の選考経過, (3) 朝日賞・松永賞の推せん候補者の選考経過, (4) 長期計画のその後の経過について, (5) 来年以降の関係国際会議について, (6) 来年度の当番支部について, (7) その他。
3. 秋季大会において、大気物理研究所の設立問題の経過説明を行なうことを承認する。

4. 来年度の当番支部は、順序からみて北海道支部なので、同支部に引受け方を依頼する。
5. 集誌関係の要望事項について
 - (1) 編集費の増額については天気、ノートとの関連もあるので、次回の理事会で再検討する。
 - (2) 今年集誌の原稿の閲読を依頼した会員(約50名)には、何らかの形で謝意を表することとし、それに要する費用は5,000円程度とする。
 - (3) 本文の紙質改良については、予算報の見積を次回に提出し検討する。
 - (4) 集誌の無償の配布先については、当学会としては行なっておらず、気象庁で、学会から買上げて行なっている現状である。したがって、配布先について当学会として希望があれば、気象庁図書課に接洽して、その実現方をはかることとする。
 - (5) 本年度の評議委員会を年末から新年にかけての適当な時期に開催することを承認する。